

【特別講演】

「性的マイノリティに対する支援」

お茶の水女子大学生活科学部心理学科

准教授 石丸 径一郎

同性愛やトランスジェンダー、性同一性障害など、性的なあり方が少数派である「性的マイノリティ」「LGBTQ」などと呼ばれる人々の存在が近年注目されている。このような人々の人口中の割合は8.9%であるとする国内のインターネット調査も発表された。医療従事者においても、LGBTQに関する基本的な知識を持つておくことは重要性を増している。性的魅力を感じる対象の性別を表す「性指向」、自身が実感している性別を表す「性自認」という概念を理解できれば、基本は押さえたことになる。一方で、より深く考察すると相当に複雑で未解明な要素や、明快に分類できない要素も存在する。

本講演では、LGBTQに関する基本や国内外の情勢について解説する。また「LGBT」としてよく使われるレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー以外の用語、クィア、クエスチョニング、エイセクシュアル、Xジェンダー、インターセックス(性分化疾患)についても解説する。また、トランスジェンダーと性同一性障害の言葉の意味の違い、そして、ホルモン療法や手術など身体的治療と健康保険適用の問題についても触れる。また、医療や母性衛生との関わりについても述べる。LGBTQである人々が医療機関で相談する際の主訴の特徴や、望ましい医療機関のあり方や対応について解説する。また近年、家族を形成したり子育てをしたりするLGBTQも目立ってきており、LGBTQを含む家族のあり方についても触れる。LGBTQに関しては、知識だけでなく、心構えや態度も重要である。哀れなマイノリティを支援するという姿勢ではなく、対等な人間として共生するという姿勢をお勧めしたい。